

【とくちゃん】

こうなったら実物の忍者に会ってみたくて、懐爺に頼んだところ、
「そのうちに、出てきますよ」
「ほんまかのう」
「これだけ忍者ごっこにのめり込んでいる、金ちゃんのところに出ないで、どこに出るといいますか」
「それもそうじゃのう」
「しかし、問題があります」
「なんじゃ」
「金ちゃんはきっと、猿飛佐助とか霧隠才蔵とか服部半蔵に会いたいのでしょうが、まったく違う忍者が現れる可能性があります」
「なぜじゃ」
「人気のある忍者は、なんだかんだ忙しいですからねえ。暇な忍者が現れるでしょう」

懐爺の予言通り、忍者が現れました。
「おまえはだれじゃ」
「拙者が有名な、天竺徳兵衛（てんじくとくべえ）でござる」
とにかく汚い。
とにかく臭い。
忍者は、身を淨く保ち、無臭のはず。
「とくちゃんかい。わしはしらん」
すげなく云いました。
「変だな。金ちゃんは、忍者のことならなんでも知っているというんで、わざわざ出て来たのでござるよ」
「なんでもしっとるが、おまえのことはしらん」
「そんな殺生な。ならば、忍術をお見せするでござる」
「やってみい」
徳ちゃんは、印を結ぶと、
「えいやあ、蝦蟇（がま）よ、出ろ」
蝦蟇がぞろぞろ出てきました。
「どうじゃ。恐れ入ったでござるか」
徳ちゃんは鼻たかだか。
「あほか。ここは、がまのすみかじゃ。えいやあ、やらんでも、いくらでも、でてくるわい」
「むむむ、話が違う」
「どうちがうんじゃ」
聞くより早く、徳ちゃんはどこかに消えました。

どうせ偽忍者だろうが、それにしても、天竺徳兵衛だなんて、変な名前を付けた
ものです。

たぶん懐爺に頼まれてやってきた、浮浪者なのでしょう。